



北海道教育大学附属特別支援学校 特別支援教育のセンター的役割



学校のキャラクター「チョコ」

本校は、「人とかがわり合いながら 自分の良さを発見し助け 地域で生きる児童生徒を育成する」を教育目標に掲げ、子どもたちの将来の幸せな生活の実現のために、ひとりひとりのニーズに応じた教育を行っている。北海道唯一の国立大学法人の附属特別支援学校で、地域の特別支援教育のセンターとしての役割にも力を注いでいる。

現職教員のための研修

1 現職教員のための臨床研修会

特別な配慮を必要とする子どものアセスメントやそれに基づく具
体的支援に悩む現職教員を対象に、「行動観察による子ども理解の方法」「子ども理解に基づ
く指導の方法」「討議を通したチームでの研修の方法」等について研修を行っている。

大学と本校が独自に作成したチェックリストにより、授業をチェックし、子どもの変容や
授業改善部分について検討する。研修参加者と附属職員との授業後のグループ討議では、
チェックリストからの情報等を等を基に、改善に向けた話し合いが行われる。参加者は、初めて出会う本校の子ども
たちの実態把握、効果的なチーム・ティーチングを目指し、授業改善を行う。



大学教員からのミニレクチャー



本校の児童生徒を対象に授業づくり



授業後のグループ討議

2 きりのめサロン&トレーニングセミナー

本校の特別支援教育のセンター的機能
の一つとして、地域で悩む小中学校の先
生や幼稚園等の療育施設の職員などを対
象に、「きりのめサロン」という名称で、
研修会や座談会などを行っている。ま
た、子どもへのかかわり、指導の方法
を実際に学ぶ場として、日常の指導ス
タッフとして指導に加わって行う「トレ
ーニングセミナー」もある。

中学期 認知・概念 活動案		学習活動のチェックリスト		コミュニケーションのチェックリスト	
項目	内容	項目	評価	項目	評価
認知・概念	1. 認知・概念の理解	1. 認知・概念の理解	1. 認知・概念の理解	1. コミュニケーションの理解	1. コミュニケーションの理解
	2. 認知・概念の活用	2. 認知・概念の活用	2. 認知・概念の活用	2. コミュニケーションの活用	2. コミュニケーションの活用
	3. 認知・概念の伝達	3. 認知・概念の伝達	3. 認知・概念の伝達	3. コミュニケーションの伝達	3. コミュニケーションの伝達
	4. 認知・概念の応用	4. 認知・概念の応用	4. 認知・概念の応用	4. コミュニケーションの応用	4. コミュニケーションの応用
	5. 認知・概念の創造	5. 認知・概念の創造	5. 認知・概念の創造	5. コミュニケーションの創造	5. コミュニケーションの創造
	6. 認知・概念の共有	6. 認知・概念の共有	6. 認知・概念の共有	6. コミュニケーションの共有	6. コミュニケーションの共有
	7. 認知・概念の活用	7. 認知・概念の活用	7. 認知・概念の活用	7. コミュニケーションの活用	7. コミュニケーションの活用
	8. 認知・概念の伝達	8. 認知・概念の伝達	8. 認知・概念の伝達	8. コミュニケーションの伝達	8. コミュニケーションの伝達
	9. 認知・概念の応用	9. 認知・概念の応用	9. 認知・概念の応用	9. コミュニケーションの応用	9. コミュニケーションの応用
	10. 認知・概念の創造	10. 認知・概念の創造	10. 認知・概念の創造	10. コミュニケーションの創造	10. コミュニケーションの創造

臨床研修会で授業の評価に活用する「チェックリスト」(一部抜粋)



実際の指導者として授業に

(トレーニングセミナー)



茶菓子付き座談会(きりのめサロン)

障がい者アート活動の支援

本校卒業生は、仕事の悩みより生活支援の悩みが多く、その中でも余
暇の過ごし方に関する相談支援が多かったことを受け、本校進路担当が
アート活動を支援している。現在は、高等部進路担当が、卒業生の利用する福祉事業所の課題
を大学や他の専門機関と協働して取り組んでいる。これらの取組を通し、学校の授業改善を検
討している。取組の一つとして、研修を行っており、卒業生が利用している福祉事業所の職員
と本校職員を対象とした合同の研修会を実施している。障がい者アートを推進している専門家
の方を講師に呼び、具体的かつ実際に行われている支援の方法を学ぶ。



本校生徒が書いた函館



研修会の様子①



研修会の様子②